

四半期報告書

(第37期第3四半期)

自 2023年10月1日

至 2023年12月31日

ビジネス・ワンホールディングス株式会社

福岡市中央区薬院三丁目16番27号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	3

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(5) 大株主の状況	4
(6) 議決権の状況	5

2 役員の状況	5
---------	---

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10

2 その他	14
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報	14
-------------------	----

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2024年2月14日
【四半期会計期間】	第37期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	ビジネス・ワンホールディングス株式会社
【英訳名】	Business One Holdings, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 尾崎 朝樹
【本店の所在の場所】	福岡市中央区薬院三丁目16番27号
【電話番号】	(092) 534-7210
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務 管理本部 本部長 松元 誠二郎
【最寄りの連絡場所】	福岡市中央区薬院三丁目16番27号
【電話番号】	(092) 534-7210
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務 管理本部 本部長 松元 誠二郎
【縦覧に供する場所】	証券会員制法人福岡証券取引所 (福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第3四半期連結 累計期間	第37期 第3四半期連結 累計期間	第36期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	9,149,260	9,670,800	12,211,135
経常利益 (千円)	1,096,931	1,071,847	1,005,785
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (千円)	740,722	701,605	645,144
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	741,012	706,853	645,337
純資産額 (千円)	4,400,604	4,982,739	4,304,928
総資産額 (千円)	25,749,418	29,066,354	27,527,849
1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	178.53	169.11	155.50
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	17.1	17.1	15.6

回次	第36期 第3四半期連結 会計期間	第37期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	26.54	29.39

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類見直しによる飲食・旅行等のサービス消費の回復を基調として、景気持ち直しの動きを見せております。また一方、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中東情勢等を起因とした原材料やエネルギー価格の高騰、世界的な金融引き締めなどにより、景気下振れリスクが高まり、先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況のもとで、当社グループは、収益構造の強化・収益基盤の拡大を目的として、各事業部門の持続的な収益確保を意識した業績管理をより一層徹底し、グループ全体の業容拡大を目指してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高9,670,800千円（前年同期比5.7%増）、営業利益1,203,808千円（2.0%減）、経常利益1,071,847千円（同2.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益701,605千円（同5.3%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①不動産事業

前期における大口の販売用不動産の売却の反動減により減益となりました。

引き続き在庫回転期間の短縮と良質な在庫資産の取得に努めてまいります。

当第3四半期連結累計期間における不動産事業の売上高は6,580,795千円（前年同期比0.1%増）、セグメント利益は841,820千円（同5.9%減）となりました。

②マンション管理事業

分譲マンションを中心としたマンション管理事業を行っております。今後も、管理棟数・管理戸数の増加による企業基盤の強化を図るとともに、高品質なサービスの提供に努めてまいります。

当第3四半期連結累計期間におけるマンション管理事業の売上高は1,428,144千円（前年同期比15.2%増）、セグメント損失は15,250千円（前年同期はセグメント利益2,986千円）となりました。

③賃貸事業

当社グループが保有する賃貸等不動産による賃料収入事業と、マンション管理物件の賃貸仲介事業など、グループの営業資産・情報力を基にシナジー効果を最大限に発揮させ、収益につなげる事業を拡大して行っております。

当第3四半期連結累計期間における賃貸事業の売上高は933,923千円（前年同期比6.3%増）、セグメント利益は334,605千円（同11.6%増）となりました。

④家具・家電レンタル事業

賃貸住宅入居者向けの他、賃貸物件オーナー・法人向けに家具・家電のレンタル事業を展開しております。

当第3四半期連結累計期間における家具・家電レンタル事業の売上高は472,443千円（前年同期比17.6%増）、セグメント利益は11,094千円（前年同期比31.1%減）となりました。

⑤ソフトウェア事業

パッケージソフト販売部門において、商品ラインナップを拡充・強化し、顧客ニーズに合わせた販売活動を推進しております。また顧客サービスを充実させるべくパッケージソフトの操作指導（スクール）やサポートセンターによる既存ユーザーへの電話サポート、バージョンアップ案内などの保守分野における企画・営業活動を展開することで、複数年契約や保守契約などの収益基盤の拡充を図っております。

当第3四半期連結累計期間におけるソフトウェア事業の売上高は146,560千円（前年同期比13.3%増）、セグメント利益31,761千円（同68.3%増）となりました。

⑥ファイナンス事業

事業者向け不動産担保貸付を主として行っております。

当第3四半期連結累計期間におけるファイナンス事業の売上高は237,218千円（前年同期比42.8%増）、セグメント利益は129,000千円（前年同期比51.5%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は18,254,960千円となり、前連結会計年度末に比べ1,296,455千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が404,332千円、営業貸付金が898,030千円増加したことによるものであります。固定資産は10,811,393千円となり、前連結会計年度末に比べ242,049千円増加いたしました。これは主に建物及び構築物が88,185千円減少し、土地が332,200千円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は29,066,354千円となり、前連結会計年度末に比べ1,538,504千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は16,518,713千円となり、前連結会計年度末に比べ1,433,747千円増加いたしました。これは主に短期借入金が875,699千円、1年内返済予定の長期借入金が729,345千円増加し、未払法人税等が176,254千円減少したことによるものであります。固定負債は7,564,901千円となり、前連結会計年度末に比べ573,053千円減少いたしました。これは主に長期借入金が566,501千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は24,083,614千円となり、前連結会計年度末に比べ860,693千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は4,982,739千円となり、前連結会計年度末に比べ677,811千円増加いたしました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益701,605千円、剰余金の配当29,042千円、その他有価証券評価差額金の増加5,247千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は17.1%（前連結会計年度末は15.6%）となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状況、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費について、特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	16,568,800
計	16,568,800

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数 (株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2024年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,148,900	4,148,900	福岡証券取引所 (Q-Board市場)	単元株式数 100株
計	4,148,900	4,148,900	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日	—	4,148,900	—	436,034	—	—

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 4,148,900	41,489	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	4,148,900	—	—
総株主の議決権	—	41,489	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人ハイビスカスによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,144,774	3,549,106
売掛金	174,058	174,590
有価証券	200,000	200,000
販売用不動産	9,542,846	9,531,672
原材料及び貯蔵品	1,941	1,832
1年内回収予定の長期貸付金	1,612	1,602
営業貸付金	3,728,530	4,626,560
その他	243,994	260,427
貸倒引当金	△79,254	△90,831
流動資産合計	16,958,505	18,254,960
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,098,759	4,010,573
土地	5,734,881	6,067,081
その他	308,468	383,123
有形固定資産合計	10,142,109	10,460,778
無形固定資産		
のれん	77,744	48,113
その他	7,161	4,991
無形固定資産合計	84,905	53,105
投資その他の資産		
投資有価証券	15,945	23,492
長期貸付金	1,159	—
繰延税金資産	257,994	206,821
その他	70,229	70,195
貸倒引当金	△3,000	△3,000
投資その他の資産合計	342,330	297,509
固定資産合計	10,569,344	10,811,393
資産合計	27,527,849	29,066,354
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	73,661	72,108
短期借入金	12,881,060	13,756,759
1年内返済予定の長期借入金	915,289	1,644,634
リース債務	3,566	4,661
未払法人税等	298,461	122,206
賞与引当金	115,200	99,712
その他	797,728	818,630
流動負債合計	15,084,965	16,518,713
固定負債		
長期借入金	7,978,655	7,412,153
リース債務	5,435	9,506
その他	153,864	143,241
固定負債合計	8,137,955	7,564,901
負債合計	23,222,921	24,083,614

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	436,034	436,034
利益剰余金	3,868,604	4,541,167
株主資本合計	4,304,638	4,977,201
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	290	5,538
その他の包括利益累計額合計	290	5,538
純資産合計	4,304,928	4,982,739
負債純資産合計	27,527,849	29,066,354

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	9,149,260	9,670,800
売上原価	6,504,781	6,958,561
売上総利益	2,644,479	2,712,238
販売費及び一般管理費	1,416,389	1,508,430
営業利益	1,228,089	1,203,808
営業外収益		
受取利息	3,465	3,282
受取配当金	577	1,150
受取保険金	13,064	25,485
その他	7,951	16,172
営業外収益合計	25,058	46,091
営業外費用		
支払利息	140,392	165,534
その他	15,824	12,517
営業外費用合計	156,216	178,052
経常利益	1,096,931	1,071,847
特別利益		
固定資産売却益	—	810
特別利益合計	—	810
特別損失		
固定資産除却損	—	166
特別損失合計	—	166
税金等調整前四半期純利益	1,096,931	1,072,492
法人税、住民税及び事業税	387,276	322,012
法人税等調整額	△31,067	48,874
法人税等合計	356,208	370,886
四半期純利益	740,722	701,605
親会社株主に帰属する四半期純利益	740,722	701,605

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	740,722	701,605
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	290	5,247
その他の包括利益合計	290	5,247
四半期包括利益	741,012	706,853
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	741,012	706,853
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

下記の会社に対し、債務保証を行っております。

		前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
株式会社シフトライフ	借入金	580,000千円	820,000千円
株式会社ナカケン	私募債	200,000千円	200,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	284,219千円	332,454千円
のれんの償却額	29,630千円	29,630千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月11日 取締役会	普通株式	20,744	5.00	2022年3月31日	2022年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月10日 取締役会	普通株式	29,042	7.00	2023年3月31日	2023年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					
	不動産事業	マンション 管理事業	賃貸事業	家具・家電 レンタル事業	ソフトウェア 事業	ファイナンス 事業
売上高						
一時点で移転される財	6,539,022	261,120	116,284	34,347	74,720	59,786
一定の期間にわたり移転 される財	7,473	978,687	65,569	—	54,684	962
顧客との契約から生じる 収益	6,546,495	1,239,808	181,853	34,347	129,405	60,748
その他の収益(注4)	27,237	—	696,896	367,460	—	105,391
外部顧客への売上高	6,346,042	1,105,644	809,567	382,688	127,050	164,787
セグメント間の内部売上高 又は振替高	227,690	134,163	69,181	19,119	2,355	1,351
計	6,573,733	1,239,808	878,749	401,807	129,405	166,139
セグメント利益	894,979	2,986	299,753	16,091	18,870	85,140

(単位：千円)

	報告セグメント	その他(注1)	合計	調整額(注2)	四半期連結損益計算 書計上額(注3)
	計				
売上高					
一時点で移転される財	7,085,281	280,130	7,365,412	△372,340	6,993,071
一定の期間にわたり移転 される財	1,107,377	286	1,107,663	△90,895	1,016,768
顧客との契約から生じる 収益	8,192,658	280,417	8,473,076	△463,236	8,009,839
その他の収益(注4)	1,196,985	7,775	1,204,760	△65,340	1,139,420
外部顧客への売上高	8,935,781	213,478	9,149,260	—	9,149,260
セグメント間の内部売上高 又は振替高	453,862	74,714	528,576	△528,576	—
計	9,389,643	288,192	9,677,836	△528,576	9,149,260
セグメント利益	1,317,821	29,490	1,347,311	△119,221	1,228,089

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他附帯事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△119,221千円は、セグメント間取引消去額△10,172千円、のれんの償却額△29,630千円、その他の調整額3,034千円、全社損益△82,452千円を含んでおります。全社損益は、当社におけるグループ会社からの経営指導料及びグループ管理に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は「金融商品に関する会計基準」に基づく利息収入及び「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸料収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					
	不動産事業	マンション 管理事業	賃貸事業	家具・家電 レンタル事業	ソフトウェア 事業	ファイナンス 事業
売上高						
一時点で移転される財	6,552,115	364,058	99,670	11,605	87,774	78,215
一定の期間にわたり移転 される財	8,598	1,064,086	72,707	—	58,786	3,011
顧客との契約から生じる 収益	6,560,713	1,428,144	172,378	11,605	146,560	81,227
その他の収益（注4）	20,082	—	761,545	460,837	—	155,990
外部顧客への売上高	6,383,704	1,252,823	859,623	470,567	143,015	232,970
セグメント間の内部売上高 又は振替高	197,091	175,320	74,299	1,876	3,545	4,248
計	6,580,795	1,428,144	933,923	472,443	146,560	237,218
セグメント利益 又は損失（△）	841,820	△15,250	334,605	11,094	31,761	129,000

（単位：千円）

	報告セグメント	その他（注1）	合計	調整額（注2）	四半期連結損益計算 書計上額（注3）
	計				
売上高					
一時点で移転される財	7,193,440	341,412	7,534,853	△297,953	7,236,899
一定の期間にわたり移転 される財	1,207,190	249	1,207,440	△106,959	1,100,481
顧客との契約から生じる 収益	8,400,631	341,662	8,742,293	△404,912	8,337,380
その他の収益（注4）	1,398,456	5,087	1,403,544	△70,124	1,333,419
外部顧客への売上高	9,342,704	328,096	9,670,800	—	9,670,800
セグメント間の内部売上高 又は振替高	456,382	18,654	475,036	△475,036	—
計	9,799,087	346,750	10,145,837	△475,036	9,670,800
セグメント利益 又は損失（△）	1,333,032	△1,061	1,331,970	△128,162	1,203,808

- （注） 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他附帯事業を含んでおります。
 2 セグメント利益又は損失（△）の調整額△128,162千円は、セグメント間取引消去額△2,089千円、のれんの償却額△29,630千円、その他の調整額3,034千円、全社損益△99,476千円を含んでおります。全社損益は、当社におけるグループ会社からの経営指導料及びグループ管理に係る費用であります。
 3 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 4 その他の収益は「金融商品に関する会計基準」に基づく利息収入及び「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸料収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	178円53銭	169円11銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	740,722	701,605
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	740,722	701,605
普通株式の期中平均株式数(株)	4,148,900	4,148,900

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月14日

ビジネス・ワンホールディングス株式会社

取締役会 御中

監査法人ハイビスカス

札幌事務所

指定社員 公認会計士 堀 俊介
業務執行社員

指定社員 公認会計士 御器 理人
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているビジネス・ワンホールディングス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ビジネス・ワンホールディングス株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2024年2月14日
【会社名】	ビジネス・ワンホールディングス株式会社
【英訳名】	Business One Holdings, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 尾崎 朝樹
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	福岡市中央区薬院三丁目16番27号
【縦覧に供する場所】	証券会員制法人福岡証券取引所 (福岡市中央区天神二丁目14番2号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 尾崎朝樹は、当社の第37期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。